

症例をそのままコピーペーストした場合は試験不合格の事由にあたります。

【様式4の2】

受験番号兼申請番号	医・歯・技
-----------	-------

(この上の欄には記入しないで下さい)

西暦 年 月 日

症例番号	
------	--

- 1) 医療機関;
- 2) カルテ番号;
- 3) 年齢;(初診時) 54歳
- 4) 性別;女性
- 5) 職業;主婦
- 6) 主訴・主症状;無呼吸が入院中に夜勤の看護師によって認められた。
- 7) 診断;睡眠時無呼吸症候群(顎顔面形態異常症例)
- 8) 既往歴;股関節手術の入院中に夜勤の看護師によって無呼吸が観察され、その病院にてUPPP手術をうけたが無呼吸は改善されなかった。
- 9) 家族歴;特記事項なし。
- 10) 現病歴;其病院から大学病院を紹介され、PSG施行後CPAP治療を行うも継続できず口腔内装置作成のため1998年2月27日に当院を受診した。
- 11) 心身の一般的所見;
身長150cm 体重51.0kg BMI 22.7
顔 貌:左右対称で下顎後退傾向がみられる。
その他:血圧180/128と高血圧である。
Epworth Sleepiness Scale:18点
- 12) 主要な臨床検査所見;
口 腔:右上犬歯、側切歯、中切歯、右下第2大臼歯、第1大臼歯、第2小臼歯が歯牙欠損しており局部床義歯を入れている。上顎口蓋正中に骨瘤がある。
鼻咽腔:UPPP手術のため軟口蓋が短い。鼻閉(・)、口蓋扁桃肥大(・)
- 13) ポリソムノグラフィー(PSG)所見;
PSG診断(年 月 日)表1、図2
*睡眠構築;総睡眠時間(TST):514.2分、睡眠潜時:3.5分
Arousal Index が62.5/hと高く、睡眠の分断化がみられた。これらの多くは無呼吸・低呼吸に伴う覚醒反応だった。深睡眠(st.3+4)0%、浅睡眠(st.1)37.2%で、頻回の覚醒反応によって浅睡眠の割合が高かった。また、REM潜時が長く、st.REMも11.3%と低かった。
*睡眠呼吸障害;AHIは69.3/h(AI 45.0/h、HI 24.3/h)と重症のOSASで、最低SpO₂51%と呼吸障害による酸素飽和度の低下が著しかった。睡眠体位によりSpO₂が大きく変化している。
- 14) セファログラム所見:表2、図1
下顎骨は小さく、後退していた。気道の大きさを示すLower Pharynxが4mmと狭窄が見られた。
- 15) 治療方法・治療経過
2/27:初診 X-ray(Cephalo、Pantomo、Dental、CT)、模型、写真(プロファイル、口腔内)など資料採得、問診表、Epworth眠気尺度などの記入
3/13:コンサルテーション(セファロ分析等の結果を説明)
3/19:口腔内装置作成のための印象採得
3/23:いびき音テストにより下顎前方位を決定し、咬合床を使い構成咬合採得した。
4/2:口腔内装置(Tongue Retaining Device)装着、装着時にいびき音(・)を確認。
4/15:口腔内装置が朝まで口腔内にあり、顎関節や歯牙に特別な痛みがないことを確認し、口腔内装置の効果を確認するためにポータブルモニターを貸し出した。
4/22:ポータブルモニターにて口腔内装置の効果を確認したので、紹介医にPSGの依頼をした。
5/14:PSG(with TRD)にてOSAS改善(AHI 69.3 7.7)。日中傾眠も軽減しESS8点に減少した。

症例をそのままコピーペーストした場合は試験不合格の事由にあたります。

16) 口腔内装置装着による PSG とセファログラムの比較 :

PSGでは、表1、図3のように、Tongue Retaining Device 装着により無呼吸の改善がみられた。AHIは69.3 7.7 /h、Arousal Indexは62.5 7.5 /hと改善し、深睡眠(st.3+4)が0 7.1 %と増え、浅睡眠(st.1)は37.2 5.3%と減少した。また、st.REMも11.3 31.3%と増加した。

セファログラムでは、表2、図1のように、TRD 装着により、舌根部気道の幅 (Lower Pharynx) は、4 5 mmと、わずかに気道が開大した。

上記の症例に関する診療あるいは検査および報告書作成を指導したことを確認します。

西暦 年 月 日

学会認定医、学会認定歯科医、学会認定検査技師

(学会認定証の番号:)

所属診療科の長(該当する事項を 印で囲って下さい)

医療機関と診療科名および職名

氏名

印

審査員のコメント

審査結果: 合格、保留、不合格

担当審査員の氏名

症例をそのままコピーペーストした場合は試験不合格の事由にあたります。

【様式4の4】 症例番号

(図・表は下の枠内に貼付け、各図・表に番号、タイトル、説明文をつけること)

表1 PSG 所見

項目	初診時 P S G 診断	口腔内装置装着による P S G 診断	
睡眠の状態	総睡眠時間 (T S T)	514.2 min	495.5 min
	睡眠段階 W	44.2 min (8.6 %)	24.2 min (4.9 %)
	睡眠段階 1	191.5 min (37.2 %)	26.5 min (5.3 %)
	睡眠段階 2	220.5 min (42.9 %)	254.5 min (51.4 %)
	睡眠段階 3	0 min (0 %)	20.3 min (4.1 %)
	睡眠段階 4	0 min (0 %)	15.0 min (3.0 %)
	睡眠段階 R E M	58.0 min (11.3 %)	155.0 min (31.3 %)
	睡眠潜時	3.5 min	6.0 min
	R E M 潜時	235.5 min	52.5 min
	総覚醒指数 (Arousal Index)	62.5 / h	7.5 / h
	無呼吸・低呼吸に伴う覚醒指数	58.8 / h	5.8 / h
	睡眠効率 (TST/TIB)×100	90.7 %	93.4 %
呼吸の状態	無呼吸指数	45.0 / h	2.1 / h
	低呼吸指数	24.3 / h	3.6 / h
	無呼吸低呼吸指数	69.3 / h	7.7 / h
	動脈血酸素飽和度の平均値	86 %	95 %
	動脈血酸素飽和度の最低値	51 %	92 %
	動脈血酸素飽和度の低下指数	57.5 / h	4.8 / h
その他	不整脈の回数	なし	なし
	P L M 指数	0 / h	0 / h

症例をそのままコピーペーストした場合は試験不合格の事由にあたります。

【様式4の4】

表2 初診時・口腔内装着時のセファログラム分析結果

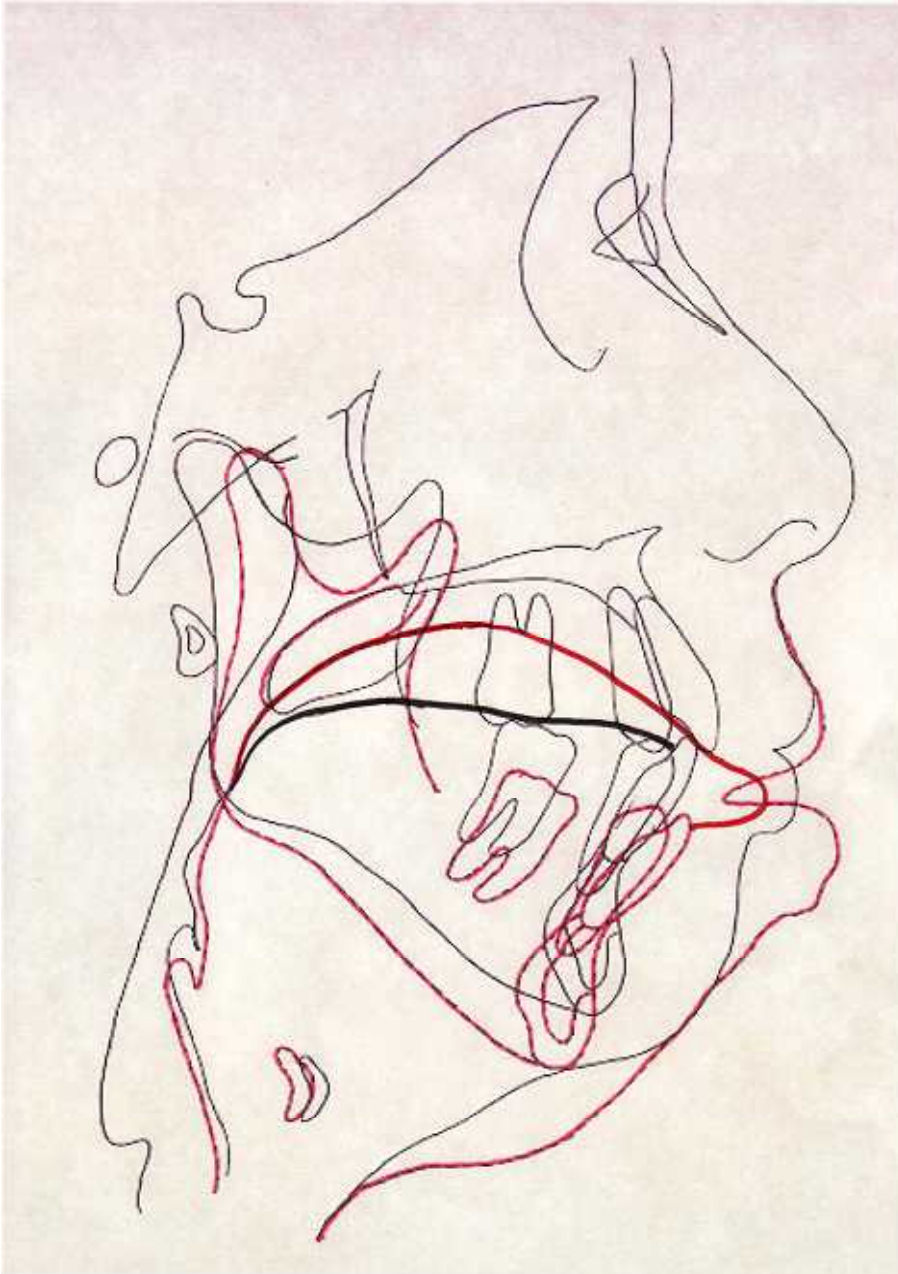
項目 (日本人成人の平均値)		初診時	口腔内装置装着時
骨格分析	SNA (81 °)	72	72
	SNB (78 °)	70	67
	ANB (3 °)	2	5
	FX (86 °)	74	69
	FD (86 °)	81	79
	MP (30 °)	38	49
	LFH (49 °)	65	73
	MA (25 °)	23	23
	TFH (64 °)	79	87
	McNamara-A (1mm)	-8	-8
	McNamara-Pog (-6mm)	-19	-25
MP-H (10mm)	31	23	
気道分析	Upper-pharynx (20mm)	2	2
	Lowwer-pharynx (12mm)	4	5
	PNS-P (35mm)	27	26

症例をそのままコピーペーストした場合は試験不合格の事由にあたります。

【様式4の4】

図1 セファログラムのトレース像

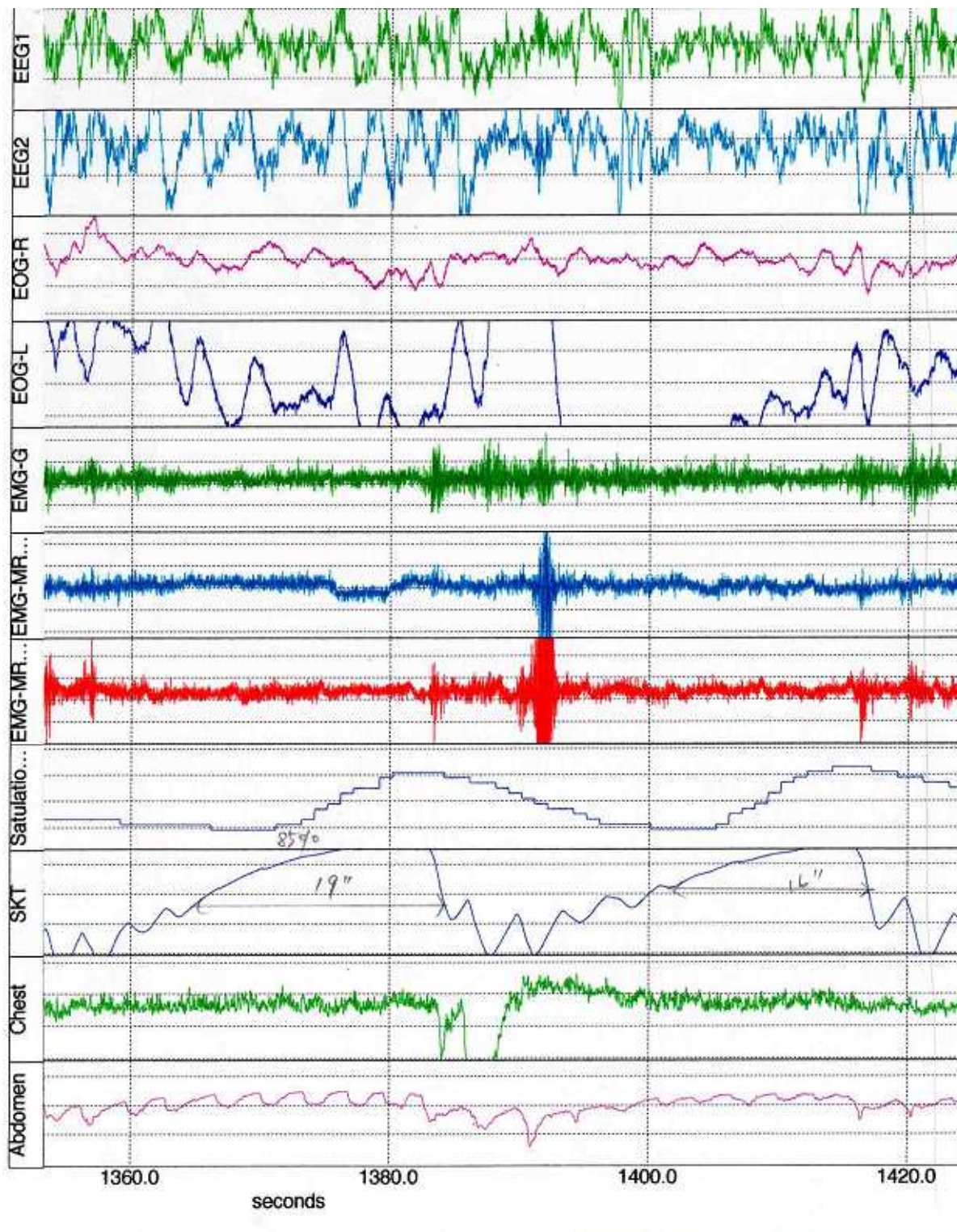
初診時（黒線）と口腔内装置装着時（赤線）の重ね合わせ



症例をそのままコピーペーストした場合は試験不合格の事由にあたります。

【様式4の4】

図2 初診時 PSG 所見



症例をそのままコピーペーストした場合は試験不合格の事由にあたります。

【様式4の4】

図3 口腔内装置装着時 PSG 所見

